

「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のNPT再検討会議 での採択に向けた取り組みを求める意見書

2009年8月、長崎市において世界の3,488都市が加盟する平和市長会議総会が開催され、2020年までに核兵器を廃絶するための道筋と、各国政府が遵守すべきプロセスなどを定めた「ヒロシマ・ナガサキ議定書」を、2010年核不拡散条約（NPT）再検討会議において採択を求めることなどの具体的な提案を盛り込んだ「ナガサキアピール」が決議されました。

同年9月には、国連安全保障理事会首脳級特別会合において、鳩山由紀夫首相は被爆国として核兵器廃絶の先頭に立つとの決意を明確に表明されました。また、日本政府が米国などと共同提案した核廃絶決議案についても、国連総会第1委員会でも過去最多の国々の賛成で採択されるなど、日本政府の被爆国としての取り組みは一つひとつ成果を積み上げてきています。

雲南市は、「平和を」と「如己愛人」の精神により、世界に平和を訴え続けられた永井隆博士の有縁の地であり、平成17年11月に「平和を」の都市宣言をおこない、非核宣言自治体として世界の恒久平和の実現と核兵器の廃絶を強く願ってきたところです。

国会及び政府におかれては、核兵器廃絶の取り組みをさらに推し進めるために、平和市長会議が提案する「ヒロシマ・ナガサキ議定書」の趣旨に賛同し、2010年のNPT再検討会議において、同議定書の採択に向け、核保有国を初めとする各国政府に働きかけられるよう強く要請します。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出します。

平成22年3月19日

島根県雲南市議会